

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600542		
法人名	有限会社添田商産		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎12番地		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果確定日	平成23年1月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は、「残存能力の維持」と目標を持ち、それぞれの持ち味を活かした機能訓練を計画し、家族交流会でも合奏を、成功させることができました。職員と利用者とそのご家族が一致団結し、いつも笑いのたえない暖かなグループホームでありたいと願い、日々努力を惜しまず前進し、「我が家」として頂けるホームを目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域貢献への思いを具現化するために設立された「グループホームかがやき」は、地域行事や災害時の地域住民の避難場所として、広い敷地を提供している。また、行政との連携により地域の高齢者支援にも取り組んでおり、地域における福祉拠点としての役割を担うべく活動している。管理者・職員は、今一番しなければならない支援の優先順を見極めながら、入居者一人ひとりの尊厳を大切に支援に努め、また、日々の暮らしの中で、自分らしさを発揮できる場面づくりを積極的に支援し、心身の活性化につなげるよう取り組んでいる。運営者と管理者・職員が一体となり、目指すべき支援の共有、質の向上に取り組んでおり、日々研鑽を重ねている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って活動し、地域の清掃活動等に参加しています	事業所独自の理念として「地域の皆様と明るく楽しく助け合い、今日も一日笑顔でかがやきましょう」と掲げ、日々唱和している。地域密着型サービスとしての意義や役割を、毎日のミーティングにおいて確認し、理念の共有・実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の散歩等の受入れや、お手洗い等の貸し出し、地域行事の際、園庭の利用などを通して交流しています	代表者の地元でもあり、地域に根付いたホームとして、また福祉拠点としての役割を果たすべく、日々取り組んでいる。町内会に加入し、相互に情報収集・発信が行われる中で、地域行事や地域活動に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での、認知症の方の相談があった時は、自分たちのできる方向で相談に応じています		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で議題とし、報告しています	前年度の評価以降、議事録が整備されている。2ヶ月に1回の運営推進会議では、行事の報告や地域住民の相談に対し、行政からの助言もあり、事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いつも、連携に努めています	運営推進会議だけでなく、地域福祉について行政との連携を図りながら協働している。相談や助言、情報共有を図りながら、理念の実践につなげている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員及び代表者は、資料等を用いて、身体拘束の現状を学び、玄関の施錠も含め、居室の施錠もしておりませんし身体拘束をしないケアに努めています	入居者一人ひとりの人格を尊重し、役割を持って日常生活を送る事ができるように支援しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠していない。内部研修においてリスクマネジメントについての検討を行い、意識を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつも、資料等を用い、学びあっています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加と、皆で資料を読み、理解しています	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修に参加し、必要時には活用に向けた支援が行えるよう、内部研修も実施している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつも、丁寧に説明しています		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告の際に、ご希望を伺う機会を設けています	運営推進会議や家族の来所時には、意見や要望を気軽に発言できるよう配慮している。また、意見や要望の問題点を、会議やミーティングにて取り上げ、運営に反映させるよう努めている。意見を頂けるように日頃からコミュニケーションを大切にしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3～4ヶ月に一度親睦会を開いたり、要望を個人的に聞き運営に反映させています	職員の意見については、親睦会やミーティング、内部研修の折に要望を聴く機会を設け、また、日々コミュニケーションを図りながら、要望等を気軽に発言できるよう配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等、職員の各々の家庭環境に沿って、働きやすい職場を目指しています		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢構成もさまざまに男女差もなく権利も保証できるよう勤務体系も可能な限り、希望を聞き入れています	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。年齢幅も多様で、20代から70代の職員が勤務している。チームで働けるような職場の環境づくりや、自己実現できるように勤務体制に配慮がある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習の内外の研修への参加等積極的に実施しています	内部研修等で議題として取り上げ、職員等に対する人権教育、啓発活動に積極的に取り組んでおり、研修報告からも確認できる。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの力量に合わせた法人内外の研修の確保に努めています		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町の研修等に参加させて頂いていますし、違う施設に訪問する機会も設けています		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご利用者本人・御家族等の要望等を伺い生活暦や既往症の把握に努め、安心して生活出来るよう様温かい人間関係づくりに努めています		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入居をとりいれ、要望等に細心の注意を払いながら、納得して頂き、入居をして頂いています		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にお伺いした生活状況や状態によって、違ったサービスの紹介等もおこないます		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の負担の無い程度の作業等を分担し、暮らしの中で協力しながら生活しています		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族がお互いに言えない事などの仲介等も行ったり、家族間の連携がとれる様に電話連絡をしたりします		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会に参加されたり、友人知人が尋ねてこられたり、地域の老人会の行事等にも参加されています	同窓会やお墓参りに出かけたり、馴染みの地域行事への参加を大切に支援を行っている。地域行事の際には園庭を開放しており、馴染みの関係の中で、緊急避難の受け入れ等に対応ができるように取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	レクリエーションや余暇を利用し、利用者同 士の交流が図りやすい様な、空間や時間を 作り、親睦を深められるよう支援しています		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、ご家族が遊びに来ら れたりこちらからも尋ねたり、違う利用者の 紹介をして頂いたりしています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	生活暦等の把握に努め、2ヶ月毎にセンター 方式の活用による、利用者本位のサービス を検討し、実践しています	入居者や家族との面談を基に、2ヶ月に1回 センター方式を活用し、アセスメントした要望 や意見を日々の暮らしに反映できるように検 討し、安心して暮らせるよう努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	御家族にご自宅での様子等をおききし、 できるだけストレスの無いように自然体で サービスを、利用できるように支援していま す		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	心身状態を時間ごとに観察し記録していま す残存能力の見極めも細心の注意を払い、 現状の把握に努めています		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人本位を、第一に考え、御家族の意見等 も取り入れ、全職員が介護計画のアイディ アを持ちより、作成しています	本人・家族とのかかわりの中で、本人本位を 第一に考え、アセスメント情報を基に介護計 画が作成されている。ケア会議により検討さ れ、柔軟な計画作りに努めている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等の日誌、連絡ノートや、セン ター方式を活用しながら、介護計画の見直 し等をおこなっています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院等に入院の際など、交代で職員が、洗濯物の交換や、ご家族の代わりに付き添いをすることもあり遠方の病院にも必要性が生じれば付き添っています		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や清掃活動等職員とともに参加し、日用品などは、なるべく地域の商店に散歩しながら職員とでかけ商品を購入し、希望者は地域の理容室や美容室に出向いています		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の希望や御家族の要望を聞き、納得の得られるかかりつけ医に受診していただき、事業所としては、日頃の様子等を的確に伝えられるよう努力しています	本人・家族の意向によるかかりつけ医を尊重し、また協力医としても、内科、外科、歯科、総合病院との連携を図っている。受診の付き添いや往診など、必要に応じて柔軟な支援がある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今の時点では、かかりつけ病院の看護士の方にファックスで情報を流したり、電話で対応して頂いています		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に3～4回病院に出向き、利用者の要望を聞き病院に相談したり、病院関係者の方とも連携を密にとっています		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、御家族とも、話し合いを重ね主治医と相談しながら希望や意向に沿えるように取り組んでいます	医師、関係者との連携により、これまでに看取りを支援した経緯もある。状況の変化に応じて、その都度、家族等と話し合いながら方針を共有している。重度化や終末期に向けて、面談時に、本人や家族の意向を確認している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受けAEDや心肺蘇生等、技術を身につけています緊急マニュアルを把握し迅速に対応できるよう訓練しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の区長さんとも連携をとり災害時に協力していただける様お願いしています又、定期的に避難訓練を実施しています	消防署の指導のもと、年2回、避難訓練を実施している。グループホームの敷地が広く、災害時には地域住民の避難場所ともなっている。緊急連絡網にて地域との連携を図り、また災害に向け、3日間分の備蓄を用意している。防災セミナーへの参加や、地震発生時の対応等を、研修計画の中に取り入れている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、言葉使いは、お互いに気をつけています時には、職員間で、注意しあうこともあります	人権学習に参加し、研修を通じて入居者の個性やプライバシー、個人情報保護等について、尊厳と権利を守る責任のある取り扱いができるよう、意識を高めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位を心がけ、すべてにおいて決定していただけるように働きかけています、又、要望があるときなども「待たせない」ことを基本に支援しています		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始まりの時にその日をどのように過ごすかを聞き、取り入れるようにしています		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の希望にあわせ、季節感のある服装や、清潔な身だしなみ等、さりげなく支援しています		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを聞き、献立に取り入れています。利用者と職員と一緒に、準備、食事、かたづけをしています	センター方式でアセスメントし、アレルギー等を把握すると共に、嗜好調査も行っている。調理準備や後片付けに、個々に応じた力を発揮してもらっている。個性を大切に、健康管理にもつながるよう、安全に安心して食事を楽しむ配慮がある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を参考に一人ずつの状態に応じて対応し、支援しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実践をしています		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の時間の把握に努め、誘導、声かけ、支援をおこなっていますご家族からも、「臭いがしない」と喜ばれています	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた声掛けや誘導、介助が行われ、トイレで排泄を促し、自立に向けた支援が行われている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を献立に取り入れたり、軽運動や腹部の温シップ、マッサージ等、個々に応じた予防に取り組んでいます		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングをあわせ、サービス変更をしています	個別性を重視した入浴支援がある。基本的な入浴支援は週3回としているが、時間を決めず、午前・午後と、希望や状態に応じて対応できるように体制作りが行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけを行い、昼寝をして頂いたり、夜間の睡眠に障害が出ない範囲で気持ちよく睡眠が取れるよう支援しています		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録の活用や、薬の処方箋を随時確認し、服薬の支援をしています		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を個人の能力にあわせて設定したり楽しみごとや、気分転換等も聴き取りをして、能力に応じて支援しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日の日課の散歩や、近くの公園に出かけたり、地域の行事への参加や、ご家族と外食に行かれたり、お墓参り等もしています</p>	<p>地域行事・同窓会への参加・墓参りなどの他、四季に応じた外出支援で季節を楽しむことができる環境である。また、日常的に散歩や買い物、なじみの美容室等、一人ひとりの希望に添って外出を支援している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出の際は、スーパーに行かれたり、衣料品店に立ち寄ったりし、買い物を自ら楽しまれています</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の方の今までの付き合いを大切にしていき、時間帯や場所等を相手の方の了承を頂いた上で支援しています</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は清潔にし、温度計や湿度計で管理し、季節の草花を生けたり、居心地よく生活出来るように工夫しています</p>	<p>明るく、清潔感ある室内空間には、花々や飾りつけにて季節感を採り入れている。換気や温度・湿度調整にも細やかな配慮が行われており、また移動のしやすさ等にも視点を確保しながら、快適な空間づくりが行われている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本年度は皆の希望により、静養室を増築し、生活音を聞きながら安心して横になれる場所を確保しましたし、所々に椅子を配置しています</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>危険の無いよう御家族や利用者と随時相談しながら、ご利用者本位で居心地よく過ごせるように工夫しています</p>	<p>本人の意向を大切に、また家族とも相談しながら、思い思いの使い慣れた家具や思い出の物等が持ち込まれ、安心して過ごせる居心地の良い空間づくりへの配慮がある。手作りのカレンダーで雰囲気作りに努めている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手摺の設置、室内の掲示、職員の配置等、安全に生活出来るよう支援しています</p>		